

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R3.7.5
豊岡市のホームページにもアップしています

No.3

「楽しい！」からその先へ～自分で関わりを変える力～

市内の小・中学校で演出家 田野邦彦氏を招聘し、演劇的手法を取り入れた授業を行いました。3つの小中学校で授業をお願いしました。共通点は「楽しい」雰囲気です。

「楽しい」ことを大事にする理由（田野邦彦氏）

- ①楽しい時の経験はよく覚えている。思い出しやすい。
- ②楽しい時ほど、その子らしさ、その集団の持ち味が出る。
- ③楽しいと、困難でも頑張ることができる。
- ④楽しいと、「失敗しても笑いあえる」良い経験になる。

うまく伝わるかな？



各学校で、次のような変化が2時間の授業の中で起こりました。

- ◆緊張感の高いクラスが・・・⇒男女関係なく和気あいあいに。
- ◆固定化した人間関係だったが・・・⇒関わりの薄い友達と笑顔で話し合うように。
- ◆最初はおとなしかった子どもが・・・⇒自分から発言し、仲間と笑顔で活動。

普段とは少し違う雰囲気の中で、子どもたちが見せたこの姿は、「意外な面」ではなく「子どもの本来持っている面」いわば「素の面」です。「みんなで乗り越えた体験」「分かち合えた体験」は子どもにはとても貴重です。

『コミュニケーションはケースバイケース』と田野氏は言います。自分の意見を主張できる、みんなの前で発表できるのも素敵なコミュニケーション能力の1つです。しかし、この授業中に見せてくれたように、リーダーも司会もない中で、「どうする？」「こんなのはどう？」「それいいかも。」「だったらこうしてみたら？」「やってみよう。」「練習しよう。」そうやってその場にに応じて、どんどん「自分で関わり方を変えていける」のも、立派なコミュニケーション能力の1つです。

「楽しい」雰囲気作りから始まる演劇的手法を取り入れた授業。「他者と聞き合い、話し合えばうまくいく。何とかなる。」そんな成功体験や満足感が、普段の学校生活や授業の中でも発揮されるように、そして少し困難な実生活の中でも発揮されるように、さらに実践と研究を進めます。



各中学校 PTA 会長も参加

【豊岡市小中一貫教育推進協議会開催 6月24日】

関西学院大学 佐藤真教授をお招きし、豊岡市小中一貫教育推進協議会を開催しました。佐藤教授からは次のようなご示唆をいただきました。

- ①教育を受けるということは自分を豊かにすること。いつも **アウトプット（表現）が大事だ。**
- ②子どもに「考え方」を意識づける。**比較、分類、関連付け等使って「考える」ことを継続する。**

今後、それぞれの課題を踏まえ、取組の充実を図ります。